

伊達市 農業委員会だより

vol.

7

農業委員会では、農地利用の最適化を図るため、遊休農地発生防止や解消のための活動をしています。各地域の担当委員が農地パトロールを行い、農地保全に努めています。



農地パトロール中の農業委員・農地利用最適化推進委員（保原地区）
（6ページに関連記事）

もくじ

就任のごあいさつ……………2

市長へ意見書を提出……………5

農地パトロール……………6

各委員の紹介……………3～4

人・農地プラン策定を推進します……………5

福島県下農業委員会大会……………6

農業委員会会長就任あいさつ



人 長 直 野 清

市民の皆様、農業者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、常日頃より伊達市農業委員会業務及び活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度の改選に伴い、引き続き会長職に指名を頂き、身の引き締まる思いであります。

昨今の地域農業情勢は、東日本大震災からの復興途上にもかかわらず、台風の自然災害にみまわれ、大変な痛手を受けました。さらに今年は春先の凍霜害で果樹を中心に甚大な被害がありました。今後、気候変動に伴う災害被害は常心しなければならぬ状況です。現在の農業は、担い手の高齢化や後

継者不足が言われる中、遊休農地が顕在化してきています。こうした農地を解消するべく改正農業委員会法の下、二期目の改選となりました。

農業委員と農地利用最適化推進委員が連携し、農地利用の最適化を積極的に進めることが必須業務となっており、人・農地プランの作成とその実質化が喫緊の課題であります。各関係機関の協力を得ながら、アンケート調査や地域の話し合い等を通じて、地域の将来像を描き、今ある農地を守り、活かし、残し、承継するため、伊達市農業委員会活動をなお一層進めていく所存でございます。

最後になりますが、食料自給率向上による新たな農業立国を目指し、多くの皆様とともに、伊達市から活力ある農業情報を発信できればと思っております。今後とも、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農地利用最適化推進委員長就任あいさつ



推進委員長 舟 山 健 一

伊達市農業委員会農地利用最適化推進委員長就任に当たり、ご挨拶申し上げます。農業者の皆様方には、日頃から農業委員会の活動に関しまして、格別なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成28年4月の農業委員会等に関する法律の一部改正により、2度目となる改選が行われ、制度改正後の農業委員会は、市長が任命した農業委員19名と農業委員会長が委嘱した農地利用最適化推進委員24名により組織されました。これまでの、農地利用に係る公正で適正な事務処理はもちろんのこと、必須事務に位置付けられまして担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規

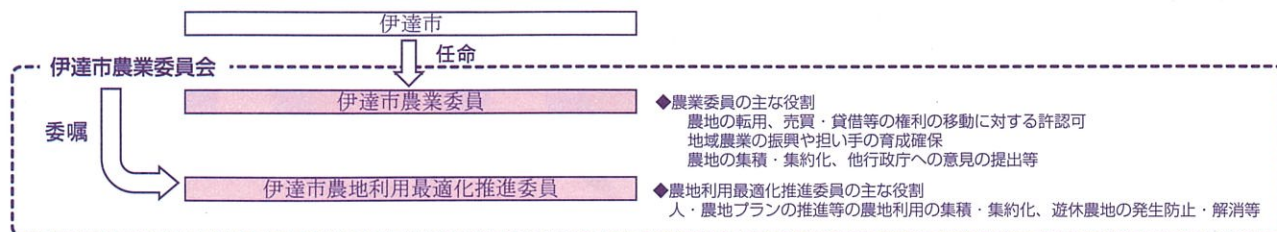
参入者の促進などの農地等の利用の最適化の推進に取組んで参ります。本市は、福島県の最北端に位置し、自然豊かな農業都市でもあり、新鮮で安心・安全な農産物を供給するとともに、地産地消にも努めております。しかしながら農業を取り巻く状況は依然として厳しく、農業従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地の増加や食料自給率の低下など、課題は山積している状況です。

そのため、農業者の公的代表機関である農業委員会の役割を果たすためにも、新たな農業委員会体制のもと、農業委員及び農地利用最適化推進委員の連携はもとより、地域や農業関係団体との連携を密にして農業委員会活動を円滑に推進して参ります。

関係者の皆様の日頃からのご支援、ご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介

農業委員は、市長が議会の同意を得て任命します。市長は、任命に当たって、あらかじめ地域の農業者や農業団体に候補者の推薦を求め、募集を行い、地域や年齢に偏りが無いよう配慮します。また、農業委員会は農地利用の最適化に取り組むため、農地集積等に対し識見を有する者のうちから農地利用最適化推進委員を委嘱します。



◆ 第7期 農業委員 ◆（任期：令和3年7月1日～令和6年6月30日）



(会長)
霊山町下小国
清野 直人



(会長職務代理)
梁川町粟野
土屋 洋一郎



伊達市伏黒
鈴木 政浩



伊達市田町
吉田 浩重



梁川町大関
渡邊 政幸



梁川町東大枝
佐藤 清光



梁川町山舟生
八巻 長一



梁川町天神町
渡邊 茂



梁川町舟生
大槻 孝徳



梁川町五十沢
穴戸 洋一



保原町大柳
佐藤 易廣



保原町十二丁目
浦山 公一



保原町柱田
柳 沼正治



保原町大泉
長沢 壽幸



霊山町泉原
阿部 忠幸



霊山町大石
大橋 吉成



霊山町石田
菅野 照



月舘町糠田
千葉 利市



月舘町御代田
寺島 武

◆ 第2期 農地利用最適化推進委員 ◆ (任期：令和3年7月16日～令和6年6月30日)



(委員長)
保原地区担当
舟山 健一



(副委員長)
霊山地区担当
大武 有子



伊達地区担当
八城 智広



伊達地区担当
佐々木 春男



梁川地区担当
橘 典雄



梁川地区担当
大和田 俊一郎



梁川地区担当
津田 茂



梁川地区担当
齋藤 信夫



梁川地区担当
菊池 和彦



梁川地区担当
八巻 博



梁川地区担当
小賀坂 伸夫



梁川地区担当
三浦 秀勝



梁川地区担当
秋葉 武



保原地区担当
佐藤 善一



保原地区担当
井上 林一



保原地区担当
佐瀬 之人



保原地区担当
後藤 喜美枝



保原地区担当
阿部 良夫



保原地区担当
野田 源吉



霊山地区担当
八島 市蔵



霊山地区担当
引地 秀樹



霊山地区担当
渡邊 みき子



月舘地区担当
高橋 敏明



月舘地区担当
佐藤 輝弥

市長へ意見書を 提出しました。



10月19日、午前11時より、伊達市役所において、「令和4年度農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を市長へ提出しました。

これは、農業委員会等に関する法律の規定に基づき、次年度の予算編成時期に合わせて毎年行っているものです。今の農業の課題やその対応に関する意見を7項目にまとめています。



(意見書の概要)

- 1 遊休農地の発生防止・解消対策について
 - (1) 「人・農地プラン」など、地域での話し合いへの補助継続
 - (2) 遊休農地を解消した際の補助金の上乗せ、農地集積の積極的な調整
- 2 農業後継者、担い手支援について
 - (1) コメ概算金削減に対する支援
 - (2) 収入保険の掛金に対する支援
 - (3) 実践的研修の場の提供等、体制の整備、後継者への支援
- 3 原子力災害対策について
 - (1) 農地周辺ため池の定期的なモニタリング、除染廃棄物を早急に処分するよう国へ強く働きかけを行うこと
 - (2) 農産物の風評被害を払拭し、消費者が安心して食する為の支援
- 4 鳥獣被害防止対策について
 - (1) 捕獲隊員確保の方策
 - (2) 電気柵等の設置に対する補助要件の緩和及び補助拡大
- 5 防災・減災対策について
 - (1) 河川やため池の定期的な管理
 - (2) ハザードマップにおける危険区域からの農業用施設等の移転費用補助
 - (3) 田んぼダムの研究推進

人・農地プラン策定を 推進します

伊達市農業委員会では、人・農地プラン策定をより推進して行くため、11月定例協議会に於いて、「人・農地プラン策定推進本部」を設置しました。

農業者の高齢化・担い手不足による農地の荒廃を未然に防ぐため、「地域の農地を誰が担っていくのか」「誰に農地を集積・集約していくのか」を地域の農業者等で話し合い、5年後、10年後の将来の方針を決めていくこととしています。

今後、農業委員と推進委員が連携し、取り組んでいきます。

- 6 農作物被害対策について
 - (1) 凍霜害防除への支援の継続
 - (2) モモ穿孔細菌病対策
- 7 企業の地下水採取に伴う農業用水への影響対策について
 - (1) 企業が行う地下水多量採取による営農への悪影響の防止

農地パトロールを行っています

9月27日から10月1日にかけて、農地パトロールを行いました。農業委員と農地利用最適化推進委員が担当地域を巡回し、地域の農地利用の総点検を行うものです。遊休農地の発生防止・解消指導、違反転用の早期発見などを目的としています。

（農地所有者の方へのお願い）

雑草が繁茂している遊休農地は、病虫害の発生等により、周囲の農地ばかりか、市民生活への悪影響をも及ぼす恐れがあります。農地所有者の方は、耕作や草刈りなど、適切な管理にご協力をお願いします。

福島県下農業委員会 大会に参加しました。

令和3年度の福島県下農業委員会大会が11月11日、福島市飯坂町「パルセいいざか」にて開催され、清野会長ほか7名の委員が参加しました。東京農業大学名誉教授間敏幸氏による記念講演「農業農村の活性化に向け農業委員会が期待される取り組み」が行われたほか、県知事への「農業施策に関する意見書」、福島

県選出国會議員への「本県農業の発展に向けた要請書」に関する報告、国県に対する米価安定に関する要請について確認を行いました。

大会では、各種表彰も行われ、本市からは、次の方々が受賞されました。

◆永年勤続農業委員・推進委員
（12年以上在任）

※写真右手前より

- ・吉田 浩重委員（伊達）
- ・佐藤 易廣委員（保原）
- ・橘 典雄委員（梁川）
- ・佐藤 善一委員（保原）
- ・寺島 武 委員（月舘）



編集後記

今年は、春先2月に福島県沖を震源とする大きな地震が起き、多くの方々が被害を受けました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。また、4月には果樹の凍霜害により収穫期の減収が大変心配されましたが、農家の方々の苦勞が実り、大きな減収とはならず安堵しているところです。

さて、委員改選を迎え、7月1日より前述に掲げた農業委員19名・農地利用最適化推進委員24名の計43名の新たなメンバーで活動を始めました。

しかし、コロナ禍の影響により、43名全員での農地パトロールが中止されるなど、本来の活動ができず残念です。

「人・農地プラン」を具体化し、農用地の適正な利用集積を図りながら、地域農業の維持発展に努め活動してまいりますので、是非、皆様方のご意見・ご要望をお聞かせください。

（編集委員 長沢壽幸）

◆編集委員

- 清野 直人委員（会長）
- 土屋洋一郎委員（職務代理）
- 吉田 浩重委員（伊達地区）
- 佐藤 清光委員（梁川地区）
- 長沢 壽幸委員（保原地区）
- 菅野 照 委員（靈山地区）
- 大武 有子委員（靈山地区）
- 佐藤 輝弥委員（月舘地区）